

令和3年11月8日  
(2021年)

保護者のみなさまへ

吹田市立千里丘中学校  
校長 古本 隆

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

晩秋の候、保護者のみなさま方に益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校教育活動にご理解、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

さて、本年度、3年生を対象として「令和3年度 全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果を返却いたしました。また、吹田市でも、今回の調査結果の概要を吹田市ホームページで公表しております。この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果の分析

#### 国語

【概要】本校の生徒の平均正答率は、国語全体において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。

【話すこと・聞くこと】平均正答率は全国値を上回っており、特に「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」という項目については、正答率が高くなっています。しかし「質問の意図を捉える」の項目では無回答率が府や全国よりやや高く課題が残ります。

【書くこと】平均正答率は全国値を上回ります。特に「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」という項目については、全国値と比べ、正答率が高く、同時に無回答率が低くなっています。

【読むこと】平均正答率は全国値を上回っており、文章全体の内容をしっかり読み取れています。特に、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」という項目では、全国値を大きく上回っています。しかし、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」の項目では正答率が全国値を下回っており、課題が残ります。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】「文脈に即して漢字を正しく読む」という項目では、全国値を上回っています。しかし項目全体の平均正答率は全国値を下回っており、特に「相手や場に応じて敬語を適切に使う」という項目では府や全国値を下回っています。

【今後の指導改善点】書く能力、話す能力に関しては、いずれも全国の正答率を上回っていることにより、これまでの指導を継続し、さらに発展的な内容に取り組んでいきます。読む能力に関しては、自分の考えを表現する項目を授業の中でも意識して取り上げていきます。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関しては、語彙力を高めるとともに、状況を仮定した使い分けを今後の活動に取り入れ、より多くの生徒への技能の定着を目指します。全体的に無回答率が低く、調査に対して積極的に取り組む姿勢がうかがえます。その良さを今後の指導にも生かしていきます。

## 数学

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。しかし、中には正答率が低いところもあり、課題もあります。

【数と式】この領域において平均正答率は、全国値を上回っていますが、問題を読みその事柄を数学的に説明すること問題の正答率が低く、課題がありました。

【図形】正答率は、全国値を上回り、扇型の弧の長さや、平行線があるとき錯角が等しくなるということなど、概ね理解できていますが、ある条件下で成り立つ他の条件を数学的に説明する問題では正答率が低く、無回答率も高く、課題がありました。

【関数】グラフから必要な情報を読み取る問題では正答率が9割を超えており、概ね理解できています。平均正答率は、全国値を上回っていますが、グラフを用いて事象を数学的に解釈する問題の正答率は低く、他の領域に比べて課題がありました。

【資料の活用】どの問題も全国値を上回っており概ねよくできていますが、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題は正答率が低く、課題がありました。

【今後の指導改善点】正答率、無解答率共に全国平均と同じ傾向があります。数学的・論理的に考える力、応用力がやや足りないように感じられます。現在の授業に加えて、よりじっくりと考えて、自分の考えを言葉にして数学的に説明する時間や教科書・問題集以外の問題をする時間をとる必要があります。

## 2. 生徒質問紙に関する調査の傾向

○肯定的回答 ×否定的回答 ↑↓→一昨年との比較 ☆良好な結果 ★課題あり  
※ 全国(公立)値と大阪(公立)値を、千里丘中と差がある項目については記載しています。記載のない項目については、同等程度の数値となりました。

### (1) 自分自身のことについて

- ☆「いじめはどんな理由があってもいけない」 ○98% (↑3P)
- ☆「人の役に立つ人間になりたい」 ○98% (↑8P)
- ☆「人が困っているとき進んで助ける」 ○91% (-)
- ☆「将来の夢や目標を持っている」 ○66% (↓1P)
- ☆「自分にはよいところがある」 ○77% (↓1P)

「いじめはいけないことである」という考えを持っている生徒が多く、全国と比べても肯定的な回答の割合が多くなっています。また、全体的には自己肯定感が高く、自分自身のことを大事にしている生徒が多いです。さらに、人のためになりたいと感じている生徒も多いため、引き続き小中一貫したキャリア教育を通じて、将来への展望を持たせたいと考えています。

### (2) 家庭生活について

- ☆「毎日同じ時刻に寝ている」 ○80% (↑3P)
- ☆「毎日同じ時刻に起きている」 ○90% (→)
- ★「朝食を毎日食べている」 ○93% (↓1P)
- ☆「普段1日当たりの勉強時間」 ○2時間以上 56% (↑8P) 全国(42%) 大阪(45%)
- ☆「家で自分から計画的に勉強する」 ○66% (↑8P)

概ね規則正しい生活を送っています。勉強に対しては、コロナ禍による家庭時間の増加やオンライン学習の普及により、家庭での学習時間が一昨年よりも非常に増加しており、全国・大阪府と比べても1日当たりの勉強時間が2時間以上の生徒の割合が非常に高くなっています。引き続き、自主的に計画を立て、学習に取り組む姿勢の大切さを説きながら主体的に学ぶ姿勢を培っていきます。

(3) 地域・社会等について

- ★「地域や社会のために何をすべきかを考える」 ×何をすべきか考えない 62% (↓1P)
- ★「地域行事の参加」 ×していない 69% (↑9P)
- ★「1日の読書時間」 ×全くしない 47% (↑14P)  
○30分以上 19% (↓3P)

地域や社会に関する質問では、社会での出来事に関する興味関心の部分で、否定的な意見の割合が高いです。また、コロナ禍により地域行事への参加が難しく、否定的な意見の割合が高くなっています。今後身近な社会である地域に多様な関わりをもてるよう啓発を行っていきます。読書に関する質問では、読書を全くしない割合が高くなっています。図書室の活性化の必要性を感じております。

(4) 調査教科について（肯定的回答 単位%）

	好き	大切	よくわかる	社会で役立つ	記述問題に対して努力した
数学	61	82	83	71	78
国語	53	86	64	76	64

数学、国語ともに苦手意識はあるようですが、記述問題に対して最後まで書こうと努力した割合は高く、しっかり取り組む姿勢を持っています。どちらの教科においても、「大切」「社会で役立つ」と考えている生徒が多く、将来の必要性を感じ前向きに取り組もうという意識が見てとれます。

引き続き「よくわかる」「できた」という達成感が持てる授業づくりに取り組み、指導方法の工夫を続けていきます。